



児童養護施設 合掌苑 〒501-4101 岐阜県郡上市美並町上田 674

電話 0575-79-2914

FAX 0575-79-3584

「令和になって1年が経ちました」

合掌苑 苑長 成澤 武史

昨年5月、時代は平成から令和へ。「令和には人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められている」と発表。しかし2020年、東京オリンピックの開催が予定され日本が輝ける年として誰もが期待していた矢先、新型コロナウイルスが世界を包み込みました。国が非常事態宣言を出し社会が止まるといふ、大多数の人が経験したことのない事態の中で、皆さんがウイルスの脅威や先々の不安と闘っていることと思います。

当苑でも、3月から県の自粛により子ども達も学校に行けない、部活やクラブなど文化活動も自粛。保護者の皆様にもお願いし、不要不急の面会外出も控えて頂きました。苑で生活する子ども達は、このような大変な状況下で、生活に我慢を強いられるにも関わらず、協力的でいてくれています。落ち着いて生活し、大きな病気にも罹らず、手洗いやマスクなどの取り組みでは手間も不自由さも増していますが、協力して自粛生活をしていただいていることに感謝しています。大人以上に時代に順応している姿に生きる強さを見せてもらっている気がします。

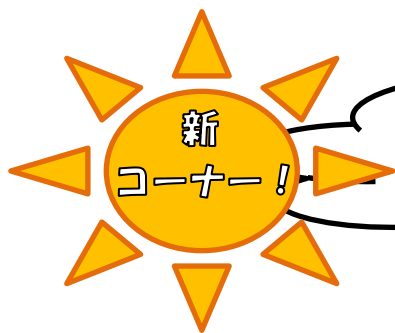
今もなお世の中は不安定な状態の中にありご自身の生活にも不安を抱えているはずなのに、子ども達は大丈夫かとお声をかけて下さる方、少しでもとマスクや食品のご寄付をしてくださる方と、皆さんの優しさやお心遣いに触れました。ありがとうございます。

大変な状況だからこそ、「人の優しさに触れ、美しく心を寄せ合う中で日本という文化に触れ、子ども達だけでなく我々も育っている」のだな、と感じました。これまでの生活では感じられなかった当たり前の生活・健康・幸せ。コロナウイルスが去った後も大切にし、子ども達に伝えていきたいと思っています。何よりも、未来を担う子ども達の命をどう守るか、子ども達の権利をどう保障するか、自分が病気と闘う以上に大きな責任と我々職員も改めて向き合っています。

まだまだ新型コロナウイルスの感染は止まっていません。今後も治療薬やワクチンが出来るまで、当り前でない生活と衛生管理を続けていかねばなりません。大切な人の、大切な命を守るため、皆で協力し、支え合っ



自粛期間中に屋内でできる活動として、本館1階の廊下壁の塗り替えを職員子ども一緒に行いました。



合掌苑の職員さん



合掌苑には、様々な職種の職員がいます。このコーナーでは、その職種の紹介を兼ねて、仕事への思いを話してもらおうと思います。記念すべき第1回目は、里親支援専門相談員の古川先生です！

里親支援専門相談員となって

—これまでを振り返って—

古川浩二

私は、昭和53年に合掌苑に入職し働いてきました。平成25年から「里親支援専門相談員」となりました。里親支援専門相談員としては主に、県・子相をはじめ関係機関と共に中濃地方の里親さんとファミリーホームの家庭訪問、研修、交流（サロン）、啓発活動を行ってきました。



活動の中で里親さんやファミリーホームの方々と関わっていると、児童福祉に関わる事への様々な面が見えてきます。発達障がいの子を育てることの大変さや、里子の進路・進学や就職を考えていくところで、悩み、苦労したお話などを聞かさせていただきました。高校卒業後、大学・専門学校をめざす里子については、奨学金などの手続き等で苦労された里親さんもいました。制度を知ることや当てはまる奨学金を探すことはとても骨が折れることです。しかし、里親さんが一生懸命子どもと関わることで、大きく成長していると感じます。

里親さんになられる方は、自分の子として育てたいということで「養子縁組里親（自分の子として迎えること）」になることを希望される方が多いです。その一方で「養育里親（養子縁組を目的としない里親）」の方もみえます。養育里親さんは、施設と同じように家庭復帰または自立するまでの期間になりますが、愛情をもって育てて頂いています。たとえ、里子が自立し離れたとしても、その成長を見守り、関わりを持ち続け、子ども達の心の支えになってみえる里親さんがほとんどです。頼れる先ができて、さらに先に繋がっていくことは、子どもにとっても社会的養護にとっても、大変喜ばしいことです。



社会的養護を必要としている子を受け入れ育てることは、施設職員も里親さんもファミリーホームの方も子を思う気持ちは同じでした。里親さん、ファミリーホームでの子育ての喜びと共に大変さを改めて感じた次第です。私自身も、これまで多くの社会的養護を必要とする子と関わってきました。子どもの成長を見ることのできる仕事、大変さもありましたが喜びの方が多かったように思います。その中でも、小さい時から苑で育った子が就職することになり送り届け別れの際に、「ありがとう」といってくれた一言に、担当していた子が結婚式に招待してくれ親席に座ってほしいと言われた時、何とも言えぬうれしさ喜びを感じたものでした。毎日の生活の中でも些細なことではありますが、子どもの笑顔に、やさしさに触れた時、この仕事を頑張ろうという気持ちにさせてくれ幸せを感じたものです。

社会的養護

各種施設

ファミリーホーム

里親

これからも離婚、病気、交通事故、災害、虐待などいどんな理由で保護者と一緒に暮らせない社会的養護を必要とする子どもが出てきます。施設、里親、ファミリーホームはそういう子どもたちの生活を保障するところでもあります。今年度より岐阜県で里親養育包括支援（フォスタリング）事業がスタートしました。これは平成28年に児童福祉法が改正され「家庭養護優先の原則」を受け、「質の高い里親養育を一貫した体制で提供していくこと」を目的に始まったものです。里親支援も新たな時代に入ったということです。

このように時代と共に社会的養育の制度・体制など変わってきていますが、私はこの仕事を通して思うことは、子どもが施設・里親さん・ファミリーホームで生活するにあたり、そこでどんな人に育ててもらったかが一番大事なことだと思っています。子どもが大きくなって「あの人が育ててもらって良かった」「あの施設で育てて良かった」「あの里親さんに育ててもらって良かった」「あのファミリーホームで育ててもらって良かった」と思ってもらえること、この一言に尽きるのではと思います。そうすると自ずと子どもとどう関わっていったらいいのか、どう育てていったらいいかが見えてきます。子どもにとって「この人という頑張れる」「この人という楽しい」「この人という気持ちがいい」「この人にいてほしい」と思われるような施設の職員・里親さん・ファミリーホームの人であってほしいと思います。

そして、家庭復帰・自立支援に向け社会資源を大いに活用し、退所した子どもが、いつでも気軽に立ち寄れるような、困った時には、相談できるような施設、里親さん、ファミリーホームであってほしいと思います。

そのために研修会があり、里親さんには、里親研修会、里親交流会（サロン）があるのです。子育ては一人で育てるものではなく子どものためにも周りの多くの方の力をお借りして育てるものと思います。よって多くの方に参加していただいて子育てについて一緒に学び、意見を交わし、情報を共有して子どもの幸せを考えると共に自分の幸せも感じていただきたいと思います。

社会的養護を必要とする子の養育制度・体制は今日良くなってきています。そして多くの方々からお力添えもいただいています。これからは、地域社会の方にとって施設があること、里親さんがみえること、ファミリーホームがあることは普通であると共にありがたいと思ってもらえるようにより良い関係をつくり、地域社会に協力し貢献していけたらと思います。

今年に入って、コロナウイルスの影響で社会のすべての活動が自粛となっています。命と安心安全あつての里親支援です。早く終息することを願っています。



里親
ファミリーホーム



図) フォスタリング機関が、里親さんもファミリーホームも支えます！



あしたば 地域小規模ホーム「明日葉」



始めました。

あしたば

「明日葉」は植物の名前です。葉を摘んでも明日には芽が生えてくる強さを持ち、花言葉は「未来への希望」。ホームの名前には、子ども達にも希望に満ちた明日を強く生きてほしいという願いが込められています。

国の動きで家庭的養護が推進されていますが、合掌苑も小規模化・地域分散へ向けて長い間取り組んできました。これまでには、研修会への参加、他施設見学等をして、職員会議を重ね、苑としての方針を固めてきました。そして令和2年4月開設に至りました。開設に当たっては、これまでご支援いただいた方、関係機関・地域の方々の理解・協力があったの事と感謝致しております。

“明日葉”は、本体施設から車で10分弱位のところに位置し、子ども6人・職員3人で構成されています。大勢で生活している本体施設と比較すると、戸建ての中に大人と子どもが生活し、キッチンで作られた料理をリビングで摂る、地域

に遊びに出かける、といったように、家庭的な雰囲気近づいているように思います。

始まって数カ月、温かい言葉をいただきながら、励まされ、周りの皆さまに感謝しながら頑張っています。どうぞ、子どもと共に職員にも声を掛けていただきますよう、宜しくお願い致します。



トイレ



玄関



外観



居室



キッチン



リビング
ダイニング



新担当紹介

本館 A 担当



今年度のA担当は2歳～小3の男女児童10人、職員4人でスタートしました。元気いっぱい、とても賑やかなメンバーです。A担当の今年度の合言葉は「なかよし」となりました。ただ「仲良く遊ぶ」という事だけではなく、泣いている子がいたら「どうしたの?」と声をかけてくれたり、自分の思うようにできなかったら助けてくれたりと、仲間で「助け合う・支え合う」という事を大事にしていきたいです。入園・入学を迎えた子もいて、新しい生活に子どもも職員もドキドキ・ワクワクしていましたが（職員はドキドキが強めです）、コロナウイルスで休園休校となってしまう、子どもたちは「いつ行くの?早く行きたいなあ」と残念そう。ピカピカなランドセル、まだ数回しか使っていないお弁当箱や水筒。早く使える日が来ることを願いながら、子ども・職員共に大きな怪我や病氣なく、1年間過ごしていきたくと思います。



本館 B 担当



今年の本館B担当は男子6人、女子9人、職員4人のグループでスタートしました。人数も多くとても賑やかな始まりとなりました。1階から2階に来た子、苑に来たばかりの子、中3で受験生の子、家庭的な小規模棟からより集団生活の色が濃い本館への引っ越しとなった子もいます。生活環境がガラリと変わった子ども達ばかりですが、新しいメンバーとの交流や、環境の違いを見つけ（お風呂が大きい、食堂で大勢と一緒に食べるご飯など）楽しんで生活をしています。ただ、楽しむばかりでなく、中3、高3の子もいるグループなので受験に向けて自分で勉強の時間を作ることや自立に向けても指導をしていきたと思っています。イキイキと生活できるように職員も子どもたちと一緒に茶話会などで話し合いをして、楽しいこともどんどんやっていきたいと思います。



かやのみ館



春からかやのみ館は男子棟になりました。担当職員は3人、全員「男」です。中学生から高校生まで6人が生活しており、自立に向けた取り組みをしている真っ最中。そんな男だらけの生活となれば、食事がなんといっても大変です。

自分達で調理して夜食を食べることもあり、体型がみるみる変わりそうで心配です。ただそんな経験から、料理を作ることの楽しさと大変さを感じています。また、「食費はいくら必要になるのかな?」「調味料ってこんなに値段がするんだ!」など、日々学んでいます。

今年度は、長年合掌苑で生活していた3人の児童が退苑を控えています。そんな彼らにとって勝負の年になりますが、今年は「コロナ」の影響を受け、学校は休校になり、なにより就職先はあるのかどうか、子どもたちは不安でいっぱい。しかし、私たちは負けません。希望をもって今できることを考え、子どもの安全を守り、これからも精一杯支援していきます。



明日葉

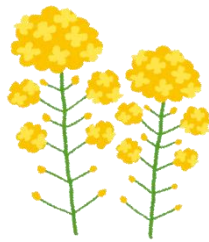


今年度から新しい取り組みとして地域小規模ホーム“明日葉”が新設されました。現在子ども6名、職員3名体制で生活をしています。より家庭に近い環境で生活を送ることが目標です。これまで本体施設では、料理をする姿を見せてあげられる機会は少なかったのですが、明日葉のキッチンにはリビングにあり、食事が作られる様子を見ることができます。そんな家庭の風景が施設で生活する子どもたちにとって貴重な体験になったのか、食に興味を持ち、苦手なものも食べられるようになりました。

当初は本体施設から離れた場所で生活を始める事に不安もありましたが、地域の方々がとても暖かく迎え入れてくださり、“子どもたちの声が響いて嬉しいよ”と声を掛けていただき安心しました。新しい生活にもすぐに慣れ、今では地域の子もたちと汗をかくまで遊び、季節物のたけのこや手作りジャムを分けていただき、地域の皆さんからアドバイスをもらいながら子どもたちと畑で野菜を作ってみたりと刺激的な体験ばかりです。子どもたちの成長を一緒に見守ってくださる地域の方とのご縁に感謝しています。



新人職員 さん紹介



昨年度は3名の職員が退職されました。合掌苑と子どもたちへのご尽力お疲れ様でした。そして今年度は新しい職員さんを1名迎えました。これからよろしくお願ひします。新しい職員さんも含め、みんなで今年もよりよい合掌苑を作り上げていきます。

4月から保育士として勤務することになりました。

好きな言葉が「やさしくね。やさしくね。やさしいことは強いだよ。」

子どもたちの「ありのまま」をまるごと受け止めて頑張ります。

やさしくできないときもあるけれど、やさしくしてもらうと嬉しいし、やさしかったら何かされても許すことができるから、友達にやさしくすることは自分が強いんだよ。

そんなことを子どもたちにも伝えたいと思っています。宜しくお願ひいたします。



<合掌苑のコロナ対策について>



合掌苑ではコロナ対策として、ウイルスを持ち込ませないという基本的考えの下、以下の対策を行っています。職員、子ども一丸となって取り組み、安全安心な環境の保持に努めてまいります。(5月時点)

- ・児童、職員の手洗い、うがい、消毒液の使用を励行して感染予防に努めています。
- ・児童の朝夕の検温、職員の出勤前の検温を行っており、職員は原則マスク着用をしています。
- ・児童の生活場所への1日1回の消毒と換気をこまめに行っております。
- ・児童、職員の不要不急の外出を制限しています(町内の散歩等は許可しております)。
- ・出張、研修等の対外的な参加は中止しております。施設内会議は緊急の会議以外は基本的に中止とし、会議を行う場合は少人数で行い職員間の距離を空けて換気をしたうえで行うものとしています。
- ・保護者、外部の方の面会を原則禁止としており、例外的に面会をする場合は来苑者に検温をしてもらい記録をしています。
- ・合掌苑の事務室窓口にビニールシート、消毒液を設置しています。
- ・感染者が発生した時の対応方法などのマニュアルを整備しています。



「温かい心」 (令和1年9月～令和2年3月)

合掌苑の苑児たちに沢山の方々から、温かいご支援を賜りました。略儀ながら紙面にお名前を掲載して御礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。

NAGARA青果	アサヒ飲料株式会社		飯沼 麻奈美	池戸 義雄	石田 秀夫	一柳 芳之
内海 幸三	永昌寺	延寿寺	大石寿司	大島 哲夫	太田 岩雄	大野柿クラブ
岡本 茂穂	小川 明	小澤 久美子	河合 しのぶ	河合 信子	川岸 承翁	河村 一成・桂子
久我 行子	郡上八幡自然園	国田 祐子	小池 いくよ	瀬瀬 隆男	小酒井 糸枝	小鷹 啓徳
小鞠 紗代子	小見山 佳寿美	澤村 いづみ	品川 昌彦	清水 重勝	すくすく合奏団	鷲見 明
全国シャンメリー協同組合		高橋 安弘	高橋 良司太	土屋 早織	トヨタL&F中部株式会社	
長尾 朝巳	長尾 千之	成田 夢佳	西村 敏行	日本鏡餅組合	のわみ相談所	長谷川 勲
畑佐 和昭	羽田野 宗雄	日置 茂伸	ビッグスワン理美容業合同会社		福手 法文	藤代 敬子
藤村 洋子	古川 篤仙	毎日新聞大阪社会事業団		松尾 栄・真由美	松田 幸子	松森 久子
丸山 茂	めぐみの農業協同組合		山田 良人	由井 健次	(有)和田ファーム	横井 晃・あや
横山建材	連合岐阜	ワールドメイト	和田 ゆかり	渡辺 義明	渡利 實	(株)27 かつ弥
(株)一松精肉店	(株)カーブスジャパン	(株)高垣組	(株)チュチュアンナ	(株)日本リンケージ		

★勝手ながら敬称を省略させていただきました。万一誤表記、掲載漏れがございましたら、なにとぞご容赦願います。

<後援会「友の会」について>

- ・親と一緒に暮らせない子どもであるからこそ、豊かな生活・豊かな環境が保障されなければなりません。この為にも合掌苑では後援会組織「友の会」を結成しております。
- ・会費3,000円、皆様のお力添えをお願い致します。
- ・詳細については、「友の会」事務局、合掌苑までご連絡下さい。

<平成31(令和1)年度友の会 会計報告>

入金額 93,195 円 (令和2年3月31日現在)

- ☆ 友の会としてご入金いただいたお金は、合掌苑 施設会計に寄付金として計上し、子ども達の生活に役立させていただきます。今後とも皆様には引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

編集後記

早くも初夏の陽気の中、外に出たい気持ちを抑えてご自宅でお過ごしになられていることでしょうか、皆様元気にされていますか。今年度は昨年度と大きく体制が変わり、分苑型小規模グループホームの“明日葉”もスタートしました。慣れない事態の中ですが、コロナなどへの不安に打ち勝つために手を取り合い、励まし合い、1日1日を無駄にしないよう子どもたちと過ごしていきたいと思っております。今年度は特別な1年となりそうですが、子どもたちと思い出深い1年を作り上げていきたいです。

合掌苑だよりのご意見・ご感想も随時お待ちしておりますので合掌苑ホームページのお問合せフォームか、Eメールよりご連絡いただければ幸いです。季節の変わり目ですので、ご自愛ください。今後とも合掌苑をよろしくお願い致します。